

隠岐の島町地域おこし協力隊年間活動報告書（R3年度分）

地域おこし協力隊 配属先 隠岐の島町役場 地域振興課
氏名 土橋 豊

1. 各月の活動報告

■ 4月：吉田くんコラボ企画

昨年度末より株DLEにコンタクトを取り、該社保有IPコンテンツ「吉田くん」との自治体コラボ企画の話を進めてきたが、役場側の予算が確定したことにより企画実施の見通しが立った。「Twitterを活用したプレゼントキャンペーン」という企画の大枠部分は担当者との協議で固まっているため、今後は実施に向けた具体的な内容を詰めていき、8～10月頃に展開できるよう調整を進める。

しまね移住フェス相談会事前説明会

昨年初開催となったオンラインでの大型移住相談会（ふるさと島根定住財団主催）の事前説明に参加。昨年度の内容を鑑み、今年度はイベント規模を抑えながらも説明会の回数を複数回設ける内容に変更すること。コロナ禍による影響で、対面ではなくオンラインでの開催を余儀なくされた昨年は、大型イベントに反して実績が伴わない厳しい内容であっただけに、今年度は各県内自治体の協力のもと、定住人口や関係人口増加に繋がるようなしつかりとした成果が残るイベント運営を目指す。

関係人口創出事業ロゴデザイン公募事業

昨年度末に結果を公表したロゴデザイン企画の各種債務（送金及び特産品発送等）を履行。ロゴPRの初段階として、係員内で名刺や名札等にロゴデザインを入れ込み、本庁内外での認知度向上を目指す。

■ 5月：人物図鑑に関する協議

隠岐の島町在住の個人事業者を対象とした情報誌「人物図鑑」の制作会議を行う。課で制作進行中の移住定住ガイドブック「ひとはな」と中身がバッティングしないよう調整し、年間のスケジュールリング及び予算確認を行う。

関係人口オンライン研修

ふるさと島根定住財団によるオンライン研修に参加。県内各市町村における関係人口関連事業の取り組み事例等が紹介された。具体的な活動はしておらず、関係人口の定義を模索している自治体が多い中、官民連携による大規模な事業を展開している自治体もあり、県内において各市町村の取り組み度合いは両極端であった。本町においても、取り組みとしてはまだまだ弱く課題も多い為、他市町村の事例を参考に、本町に適した施策を検討していく。

■ 6月：隠岐高生来庁

地域課題を教材とした学習として、隠岐高校が来庁。本町が実施しているUIターン施策及び課題について、総合振興計画などを使いながら説明した。

しまね移住相談会

昨年も開催された県内自治体の大型相談会が今年もオンラインにて開催。個人相談会では3名の相談者に対し、移住に関する施策や生活感等をお伝えした。大型の相談会はピンポイントで本町に問い合わせのある相談者に対して、直接移住に繋げることが比較的難しいため、相談者に寄り添った相談ができるよう努めていく。

協力隊担当者連絡会

SDGs をテーマにしたカードゲームを体験。SDGs の概要や町の取り組みについての課題等、具体的な理解を図ることができた。

■ 7月：西郷南中学校訪問

総合的な学習として、就労や UI ターン施策についての講演を行う。なかでも、隠岐での起業について関心を寄せる学生が多く、若者世代内で潜在的に根付いている「島外思考」の現状打破を図る良い機会であったと言える。

係内協議

「関係人口」に関する企画会議を行う。他地域の事例や本町の文化資源等を鑑みた上で、実施可能範囲である企画を立案。今後は内容を精査し、具体的な実施方法を検討する。

オンラインイベントリハ

翌月開催予定のオンラインイベント「アイス片手にしまねを旅する」のリハーサルを行う。当イベントのホストは飯南町と本町のみだが、現段階で参加予定人数は 70 名程となっており、関係人口構築における期待値はかなり高い。外からの中継の為、通信に若干の心配はあるが、参加者の満足度を高めるために万全の対策をする。

オンライン移住相談

本町に関心の高い方との移住相談を、オンライン面談形式で実施。今後もサポートを続け、相談者にとって満足いく移住に繋げる。

■ 8月：アイス片手にしまねを旅する@オンライン

オンラインの移住相談会を開催（主催：ふるさと島根定住財団）。企画概要としては、参加者は飯南町産及び隠岐の島町産の食材を使ったアイスを食べながら、2 町をオンラインで仮想旅行するというもの。本町はホストとして観光地の紹介や移住施策についてのプレゼンを行ったが、参加者の反応はかなり良好だったと言える。70 名という比較的多くの参加者を集客できたため、今後も関係人口拡大に向けて、財団と連携した移住定住施策に取り組む。

デジタル人材育成研修

行政における基本的な通信ネットワーク等の仕組みを学ぶ。業務上、外部機関と連携する機会が多いため、セキュリティ管理の観点からも学ぶポイントは多かったと感じる。

定住支援員研修

県内の各自治体がそれぞれ実施している「移住相談」に関する仕様の共有を行う。ルーティンワークのため相談内容をデータベース化していない自治体もある中、コンスタントに移住相談がある自治体は、相談録及び係内の共有が図られており、相談者 1 人当たりに対するサポートに厚みがあると感じた。本町においても相談時のヒアリングシートはあるが、それを機械的に使用するのではなく、あくまでも相談者側の目線に沿った対応を意識する。

■ 9月：知っておきたい法律の基礎講座

行政業務における法律に関する講座を受講。協力隊の活動においても、行政事務と連動する場合が多々ある為、トラブル回避の手法を知る有益な機会であった。

移住相談

本町に関心の高い方との移住相談を実施。今後もサポートを続け、相談者にとって満足

のいく移住に繋げる。現在、移住者に対してのアフターフォローの体制が整っていないため、移住後、転出される方も少なくない。そのため、移住者に対して起業支援、各種助成金やコミュニティ参加への働きかけなど、定住促進についても重点的に実施していく。

ファシリテーション技法講座

地域活動におけるファシリテーション技法の講座を受講。町民の方を交えた、地域振興を目的とした会議等で活用できるスキルを学んだ。通常業務では町民の方との会議等の機会はないが、空家問題や生活に関する地域課題の相談事を受ける際にも応用はきくため、積極的に実践したい。

協力隊企画推進会議

町内の協力隊を対象とした企画推進会議を開催。それぞれの現況報告と来年度の企画案について共有をした。来月に予定している、予算要求を目的とした会議に向け、協力隊間で企画のブラッシュアップを図る。

■ 10月：協力隊研修会

地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員の藤井氏による「任期後の出口」についての講義を受講。起業、就業など様々な事例の紹介を受け、選択の幅を広げられる機会となった。

空家活用等意見交換会

町内の宅建業者を交えた、空家に関する現況報告会を実施。UIターン者における住まいの需給等についての意見交換を行った。空家バンクへの登録誘因を図ってはいるが、いまだ空家の整備が行き届かない部分もあり、住まいの需要に追い付いていないことが課題として挙げられる。そのため、昨年度に引き続き「空家相談会」の実施などを通じ、引き続き宅建業者と連携した空家問題への取り組みを行う。

協力隊企画推進会議

来年度の予算に向けた企画会議を実施。昨年同様、協力隊による関係課への企画プレゼンを実施する予定であり、隊員間での企画のブラッシュアップを図る機会となった。

しまね移住ワンダーランド

オンラインによる県内の自治体を対象とした移住相談会が開催。昨年よりもコンテンツが充実していたにもかかわらず、来訪者は昨年度を下回る結果となった。本町としては相談件数が4件と芳しくなかったが、いずれも移住希望度の強い方からの相談であったため、有意義なイベントであったといえる。しかしながら、イベント全体としてはコンテンツ間の周遊率が低いことや、「画面越しで圧迫感がある」などのアンケート回答があったことから、改めてオンライン形式の難しさを痛感したイベントであった。

■ 11月：隠岐自然館視察

ジオ協内での自然館に関する研修会を視察。観光客の玄関口としての機能を持つ施設だが、設備や解説など通じ、隠岐の島町に興味を持ってもらうための工夫が要所で見られた。移住体験事業と連携した利用も検討の余地があると思われる。

関係人口事業打ち合わせ会議

コンサル企業との関係人口創出事業に関する打ち合わせ会議を実施。他自治体での取り組みをモデルに、本町での事業実施案をヒアリングした。関係人口のモデルケースは全国規模で展開されているが、本町の課題に即した事業となるよう企画調整を進めていく。

しまね移住相談会リハ

来月開催予定の移住相談会のリハーサルを実施。県規模の大型相談会ではあるが、座談会として本町の魅力を PR する機会が設けられているため、少しでも本町に興味を持ってもらえるよう、入念に資料等の準備をする。

■ 12月：クレーム対応力向上講座

移住定住や空家対策の施策を行う上で、「もっとこうすれば良くなるのでは」という意見を住民の方から頂く機会は多くある。そういった意見は、今後のまちづくりを見据えると非常にありがたいものであるが、なかには過剰なまでの要望もある。公務の特性上、一つ一つの意見を 100%取り入れることは難しいが、講師曰く、そうした要望を受けたときの対応が、相談者の不信感を抱かせないために大切だという。できる・できないの線引きをまずははっきりさせ、できないのであればできないなりに何ができるか、ということ伝えることが重要だと学んだ。

しまね移住相談会

県内自治体を対象としたオンラインによる空家相談会が開催。4市町による座談会では本町も参加し、補助制度の説明や観光資源の PR を行った。相談件数は1件のみであったが、移住感度の高い方であったため、当イベントは有益であったといえる。相談会は年に4回行われ、3/4が終わったわけだが、参加者数が回数ごとに減り続けていることや、相談件数が0件の自治体も多数でてきていることから、改めてオンラインイベントの難しさを感じる。各自治体でも周知が求められるため、本町でも既存の方法に依存しない広報を検討し実施していく。

空家相談会

空家所有者を対象とした空家相談会を開催。相談員として町職員の他に島内宅建業者にもご協力いただき、延べ25件の相談に対応した。町内には未だ空家が多く存在するが、関係各所を巻き込みながら、空家問題解決につながるような取り組みを積極的に行う。

総合的な学習@西郷中学校

西中生を対象としたジョブフェア形式の職業セミナーに講師として参加。隠岐に残りたいと考えている生徒、すぐにでも島外に出たい生徒など様々な考えを持った生徒がいる中で、故郷を離れたIターン者としての目線で見解を述べた。進学のための一助になったら幸いである。

■ 1月：人物図鑑制作業務

隠岐での起業を検討しているUIターン者を対象としたガイドブックの制作を企画実施。移住定住ガイドブック「ひとはな」との併用で、起業を軸とした隠岐の島町での暮らしを紹介することを目的としている。実際に起業した個人事業主の記事特集等を掲載する予定で、エンゲル係数などの具体的指標や活用した制度等を包括した、起業希望者の目線に沿ったガイドブックを制作する。

関係人口カード制作業務

隠岐の島町外に居住している「関係人口」の属性を把握・管理することや、地域の課題解決において重要な人材となり得る「関係人口」との繋がりを維持する手段として、隠岐の島町オリジナルカードの制作を企画実施。デザイン性を重視しており、隠岐の島町の認知を拡大する広報媒体としての活用も見込みながら、来年度からの運用を目指す。※特典等の付加価値については検討中。

■ 2月：田舎ツーリズム×関係人口研修

県内宿泊事業者を主とした関係人口施策の事例紹介。地方観光と関係人口の掛け合わ

せによる効果等を学んだ。観光資源が豊富にある隠岐の島町においても、島内事業者が関係人口と関わる余白は宿泊事業以外でも大いにあると感じた。そのために、地方公共団体だけではなく、民間事業者が主体となって関係人口とつながる仕組みを構築する必要があると感じた。

定住支援員研修

県による移住相談マニュアル制作における自治体職員へのヒアリングを兼ねた意見交換会。本町では参考マニュアルの必要性をあまり感じていなかったが、他自治体で実際にあった特異な相談事例も記載するらしく、なんやかんやで完成が楽しみ。

オキサボ研修会

島内の協力隊 OBOG による活動事例を紹介。県内版や全国版の研修でもよくあるような内容で、隠岐郡の協力隊を対象としたサポートという本来の目的の限界を感じた。

関係人口研修に関する協議

地域振興において、町職員が関係人口への理解を深めることを目的とした職員研修を企画。研修内容を調整し、3月初旬の実施を目指す。

■ 3月：協力隊視察研修

県内の協力隊を対象とした現場研修が隠岐の島町で開催された。本町協力隊は運営側としての参加となったが、ガイド等を通し、自身の活動を外に PR できる非常に有意義な機会であったといえる。感染症対策で一度開催を延期したことがあることから、リアルでの開催の難しさを痛感した一方で、オンラインでは特に希薄に感じる「場の一体感」があり、交流がスムーズに行われた。感染症予防は大前提として、すべての研修等を自動的にオンラインで開催するのではなく、内容に応じてリアルでの開催も候補の一つとする必要があると感じた。

関係人口研修協議

町内事業者を対象とした関係人口研修の開催について、ふるさと島根定住財団と協議した。各地区、各事業者が自走して、積極的に関係人口を受け入れていける体制を整えることを目的に、今年度前半での開催を目指す。

協力隊連絡会議

人物図鑑制作業務

完成しました！



※関係各所に配布予定。本町協力隊のオリエンテーション資料としても活用する。

関係人口カード制作業務

完成しました！



※規定等の調整後、申込者へ配布予定。

2. 翌年度の活動内容予定

- 関係人口研修
- 関係人口カード運用
- その他関係人口企画調整